

問題【社会】

江戸時代末期に関して次の問いに答えなさい。

- (1) 1853年に浦賀に来航して開国を要求したのは誰ですか。
- (2) 1858年にアメリカ総領事ハリスとの間で結んだ条約を何と言いますか。
- (3) 大老の井伊直弼が幕府の政策に反発する人たちを処罰したことを何と言いますか。
- (4) 1866年に薩摩藩と長州藩の間で結ばれた同盟を何と言いますか。
- (5) 1868年から始まった旧幕府側と新政府側の戦いを何と言いますか。

旧時代存続か、新時代幕開けか

豆知識 雑学コラム

徳川家康から始まって、鎖国体制の下、長きに渡って続く江戸幕府。しかし、その体制がどのように崩れていったのか見ていきましょう。

大きなきっかけとなったのは、やはりペリー来航からでしょう。幕府は日米和親条約を結んで下田、函館を開港。さらにハリスとの交渉では、不平等な内容を含んだ日米修好通商条約を結びます。しかし朝廷の許可なしで条約を結んだこと、大老の井伊直弼が幕府の政策に反発する人たちを処罰したことにより、井伊直弼自身も暗殺されてしまい、幕府の権威が落ちていきます。

さらに開国によって経済の混乱を招いたこともあり、幕府の姿勢に反発する武士が増えていきます。それが尊王攘夷運動になっていきます。特に長州藩はイギリスやアメリカなど4カ国と、薩摩藩もイギリスと戦っています。両藩はこの戦いを通じて攘夷が難しいことを知り、坂本龍馬の仲介もあって討幕へと流れていきます。「新撰組」の名前が広まるのもこの幕末ですね。

討幕の流れを受けて15代将軍の徳川慶喜は政権を朝廷に返上する「大政奉還」を行います。政権は朝廷に返すものの、今後も新政権で実権を握ろうとしていた慶喜ですが、岩倉具視ら朝廷側は「王政復古の号令」を出して慶喜に職と領地の返上を命じます。当然、これに旧幕府側（慶喜側）は反発し、薩摩藩を中心とした新政府側との間で「戊辰戦争」が始まります。この戊辰戦争は兵力では旧幕府側が有利だったと言われています。しかし薩摩藩などは、諸外国との戦いを通じて外国の技術などを取り入れていたため、総合的な軍事力は新政府側が圧倒していました。その後は江戸の無血開城や会津藩との戦い、最後は五稜郭（函館）での戦いを経て旧幕府側は敗北し、明治新政府による新たな時代の幕開けになっていきます。

【解答】

- (1) ペリー (2) 日米修好通商条約 (3) 安政の大獄 (4) 薩長同盟 (5) 戊辰戦争